

NPO協働提案推進事業の事業報告会における質疑

特定非営利活動法人 木の家だいすきの会

奥富委員

評価票について3つ伺いたい。

.1事業の進め方に対してはお互い情報交換をして進めることができたか。についてふつうに が ついているが、具体的に情報交換にはどのくらいの時間と日数をかけたのか。

情報交換をしなくては進められなかったことは何か。

.2単独ではできなかったことができ、協働の効果があったか。について双方ともよくできたに が ついているが、具体的にはどこで判断したのか。

寺内主幹(木材利用推進室)

について、検討会議2回、ワーキング3回を設けた。また木の家だいすきの会と当室で事務局会議を4回設けた。 について、林業者、木材加工者、設計者、行政、エンドユーザー、それぞれの立場で県産木材の利用について情報交換できたことによって、それぞれの立場にとって有意義に事業を進めることができた。 について、様々な立場の方と意見交換をしたことが事業を進めるに当たっては大変、効果的だった。民間住宅への介入は行政にとって限界がある。しかしながら、NPOとの連携を図ることにより、行政では考えの及ばない提案を受けることができた。

鈴木代表(木の家だいすきの会)

について補足する。NPO側からみるとNPOは社会的信用がまだそれほど高くない。今回のように当団体が行政と一緒に活動しているということで、製材所や森林組合と接触する機会が提供された。情報発信力については新聞、テレビ、ラジオに活動を注目していただいた。これも行政と活動を共にできたからである。マスメディアに取り上げてもらったことにより、製材所を始めとする林業関係者の方に我々の取組が波及した。

望月委員

.2、 .2について、NPO側はよくできたに が ついているが、担当課側はふつうに が ついている。NPOとして行政にこのような評価を受けて今後、何が必要だと考えているか。

鈴木代表

この事業は今後、投資事業になる。これからが正念場であり、投資していただく方を呼び込まなくてはならない。そういう意味での評価と捉えている。